

緑 樹

4 月 号

発 行 者
 清川村立緑中学校
 清川村煤ヶ谷 1933
 Tel. 046-288-1241
ホームページアドレス
<http://www.kiyokawa-edu.jp/sch/midori-j>

第七十三回 卒業証書授与式

十八人の旅立ち

感謝と決意の卒業式

桜の開花を間近に控えた三月十一日(木)本校体育館で卒業生十八名の卒業証書授与式を無事挙行することができました。緊急事態宣言が延長される中、保護者の方々にはご参列いただき誠にありがとうございました。



今年度は村長様よりリモートによる「お祝いのことば」があり、卒業生はスクリーンに体を向け聞くことができました。学校長からは、「コロナ禍でいろいろ制限がありながら卒業生が頑張ってくれた」「かけがえのない命を大切にしたい」とのメッセージがありました。在校生代表の生徒が、「先輩方の姿は、私達の目標であり、心の支えでした。」という「卒業生を送ることば」がありました。また、卒業生の「わかれのことば」では、代表の生徒が「自分たちを取り巻く多くの方々への感謝とこれから

の決意」を述べました。他の生徒達も三年間の思い出や今の気持ちを力強く述べることができました。マスクをつけての合唱でしたが、『YELL』と『あなたへ』を余韻にひたりながら堂々と歌いました。

卒業式後の最終学活では、初めての三年担任である先生がこの一年間の思いや生徒達へのメッセージを伝えることで生徒達の思いも最高潮に達しました。この素晴らしい卒業式を迎えるために一・二年生の生徒達が、準備や片付けをしつかり

くす玉の文字「青空」 想いを込めた「心の瞳」 生徒会主催 三年生を送る会

三月八日(月)、三年生の卒業にむけて、全校生徒で「三年生を送る会」を行いました。生徒会本部の生徒が中心となり、企画・運営をしてくれました。大きなくす玉の設置は、毎年恒例となっています。ひもを引いてくす玉を割ると、中から三年生へのメッセージが飛び出しました。一・二年生と職員で書いたメッセージは、「青空」という大きな文字になって表れました。「今年の三年生は、新型コロナウイルス感染拡大予防のために多くの不安がある中でも、元気に明るく、自分の未来を切り拓き、青空をイメージする学年だった」ということでこの「青空」という言葉に決まったそうです。休憩時間になると、三年生は、そのくす玉の下に集まって、メッセージの一つ

行ってくれたことも忘れるわけにはいきません。緑中学校は小規模な学校ですから皆さんの力を合わせないとできません。本当にありがとうございました。



一つを読んでいたました。もう一つの一・二年生からの贈り物は「歌」です。ソーシャルディスタンスを保ち、マスクをつけたままでの発表でしたが、合唱曲「心の瞳」を広がりのあるハーモニーと、想いのこもった歌詞で、三年生への感謝とエールを伝えました。

思いやる心を学んだ 性感染症予防授業

卒業式を目前にした三年生を対象に「性感染症予防授業」を三月四日(木)に行いました。これは、性感染症が低年齢化している現状をもとに性感染症を自分のこととしてとらえ、予防を考えるための授業です。

まず、DVD教材やパワーポイント資料の説明を受けることで性感染症の特徴や現状を知ります。

次に、簡単なゲームを行います。クラス全員が透明なコップを持ち、コップには三分の一程度水が入っています。二人組になり、相手のコップに自分の水を全部入れ、半分返してもらいます。この作業を別の人と五回繰り返しします。その後全員のコップにフェノールフタレイン溶液を入れると、見る見るうちに水が真っ赤に染まります。このゲームの種明かしは、事前に一つのコップにアルカリ性の水酸化ナトリウム溶液を入れておきます。つまりこれが、性感染症者の体液です。コップの水を交換し、赤く水が染まることで性感染症の広まり具合がわかり、予防するにはどうしたらいいかという次の質問につながります。

まよめの感想では、「男女交際をするときに互いの立場を考えることや性感染症に対して正しい知識を持つ」といったことが多く見られました。

防災について学んだ 合同体験学習

緊急事態宣言の延長に伴い、七沢自然ふれあいセンターで行う予定だった一・二年合同体験学習を本校会場に変更し、実施をしました。無事に終えることができたのは、保護者や地域の方のご協力あつてのことと感謝をしております。

コース別学習では、地域の講師の方、七沢自然ふれあいセンターの職員の皆様にご来校頂き、デコパージュによる写真フレーム作り、石けん作り、焼き杉プレート作り、七宝焼きキーホルダー作り、革細工のコースター作りを、それぞれのコースに分かれて体験しました。講師の先生方から、作品に

第3回 緑中学校区学校運営協議会

3月22日(月)18時より、第3回緑中学校区学校運営協議会が開かれました。

清川村教育委員会、幼・小・中学校、地域社会、関係団体が連携・協働を目指し、地域に根ざした学校づくりをねらいに行われる会議です。今回は、幼・小・中学校の今年度の実践報告と意見交換、来年度のランドデザインの提案がありました。

今年度の取り組みについては、新型コロナウイルス感染拡大予防をしながらの学習活動に、タブレットの活用が大いに役に立ったこと、対策をとりながらも各校で工夫しながら行事を行ってきたことなどについて報告がありました。また、来年度の取り組みについては、保護者や地域社会を代表する方々から、学校はどのような活動のサポートを必要としているのか発信してほしい、積極的に支援をしたいというご意見もありました。

学校としては大変心強く、地域皆で清川村の子ども達を育てていく視点で計画運営をし、そして発信をしていけたらと考えました。承認していただいた来年度のランドデザインについては、校内の3つのグループで活動を具体化させ、「誠・朗・韌」

の学校教育目標の達成をめざし、チームで取り組んでいきます。

保護者の皆様、地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお祈りします。



集中し完成度の高い作品ができたとお褒めの言葉を戴きました。お昼は、火起こし体験ができません。お湯を沸かす間は体育館に集まり、説明を受ける時間を設けました。お昼ご飯は、ユニバーサルデザインで乳児食、介護食にもなるレトルトのカレーライスをおいしく味わいながら食べました。

午後は、QRコードを読みながら解く防災クイズゲーム、新聞紙でのスリッパ作り(災害が起きた場合、避難する時や、避難所での生活で、足の裏のけがを防いだり、衛生状態を保つことは重要です)、水消火器による消火活動体験と三つの防災に関する体験学習を行いました。生徒は、どの活動も楽しみながら防災について学ぶことができました。

最後は地区別集団下校。三年生卒業後、新地区区長に変わり、初めての地区別下校となりました。一・二年生が協力して行ったこの行事は、令和二年度の「有終の美」を飾るものとなりました。また一段ステップアップすることができたことを自信に変えて、今年度も頑張つてほしいと思います。

臓器移植から考えた 「いのち」の授業

二月十九日(金)に日本臓器移植ネットワークの藤井隆太氏を講師として、二、三校時にいのちの授業を行いました。新型コロナウイルスの感染対策のため、直接本校に講師をお招きすることはできませんでしたが、ZOOMによるリモート授業で展開しました。

まず、リモートのライブ配信のため、生徒は興味津々です。講演中に質問があれば、講師の藤井氏に即座に答えていただきました。プレゼンによる説明もわかりやすく、生徒が臓器移植に関する知識を積み上げることができました。各学年からの質問数も多く、実際に提供された臓器をどのように運搬するのかなど、今まで気づかなかった内容まで丁寧な説明がありました。

生徒の感想には、「臓器提供をする家族の思いはとても複雑であることがわかった。」や「移植待機者のうち一年で受けられる人はわずか1%と聞いて、長い間待っていると思うと考えさせられた。」よくテレビのCMで見る「臓器提供意思表示カード」の本当の意味での必要性がわかった」などがありました。

リモートというコミュニケーション手段を用いて、かけがえのない生命の尊さについて学ぶ機会を与えていただきました。四校時は、全校生徒が講話の内容をまとめる時間でした。

まとめた作文は、「第九回『いのちの授業』大賞作文コンクール」に応募する予定です。



4月の行事予定

- 5日(月) 着任式 始業式 弁当持参
入学式
 - 6日(火) 対面式 管理職離任式
身体測定 弁当持参
 - 7日(水) 学級専門委員会 弁当持参
 - 8日(木) 人権アンケート 給食開始
 - 12日(月) 尿検査
 - 16日(火) 代表委員会
 - 17日(土) 部活動保護者会 授業参観
学級保護者会 PTA総会
 - 20日(火) 家庭訪問
 - 21日(水) 集団下校訓練
 - 22日(木) 家庭訪問
 - 23日(金) 家庭訪問
 - 26日(月) 生徒朝会
 - 27日(火) 歯科検査
 - 29日(木) 昭和の日
 - 30日(金) 土曜授業参観振替休業
- ※予定は、変更になる場合があります。